

9章 構造マップを使った指導

1.指導の背景

(1)なぜ構造マップか

・構造マップ：

カング (Kang, 2004) 「理解や学習を高めることを目的とし、ある与えられた領域において、構造的知識を示すために、図や図形、チャートなどを使い視覚的に構造すること」

・骨格構造パターン (Ibrahim, 1979)：文と文、段落と段落のつながりを矢印などで示していき、文全体の流れを図式化して示すもの。

・フローチャート・visual organizer：全体を抜き出すのではなく、文中のキーワードだけを抜き出し、それを図式化し全体の流れを示す。

構造マップを使うと読解指導において、核となるメッセージを伝えるために筆者がどのような文展開を使っているか、また文全体に何が書かれているかを把握させることができる。

本章では構造マップをアウトプットの指導のために用いる。

(2)多様な構造マップと種類

構造マップの種類

pp. 140-143 を参照

どの構造マップを使うかは教材によって異なる。また、教師が生徒にそれぞれの構造マップが持つ特徴と意味を教えることが必要である。生徒が構造パターンを正しく選択できるかは教師の指導力による。

2.指導の実際

(1)準備段階としての構造マップ指導

生徒が構造マップを理解し、自分でマッピング（構造マップを作ること）を行い、アウトプットにつなげるようになるためには、普段から構造マップを取り入れることが効果的。

Ex.リーディングの授業に取り入れる

- いきなり生徒にマッピングをさせるのではなく最初の段階では教師が用意しておいた構造マップを使うとよい。
- 機械的に語句を記入させるのではなく、生徒に考えさせる構造マップを作るとよい。
→生徒は答えを見つけるために教材を何度も読み、手がかりを見つけ出し思考力を働かせる。
- 構造マップが完成したらクラス内で確認し合うと、語彙や発想を共有することができる。

(2)サマリー・ライティング, 口頭サマリーとしての構造マップ

構造マップを使い、アウトプット活動につなげる。

構造マップをヒントにしてテキストの内容を要約したり、パラフレイズしたりする。

従来のいきなり教材を要約する作業と違い、構造マップを使うとテキストの内容が構造化されてくるので、キーワードとして何を使うか、説明するのにどの構造パターンを使うかが見えてくる。

サマリー・ライティングと 口頭サマリーの併用

手順：

- ①いきなり英語で要約するのが難しければまずは日本語で行う。または教師がモデルとなって英語でパラフレイズし、生徒がそれをリピートする。
- ②ペア活動
- ③クラス発表
- ④口頭でのサマリーをサマリー・ライティングにつなげる

(3)自由英作文での活用

あるテーマに対してアイディアが出ないとき、またはアイディアをどのようにして文としてつなげていいのか分からないときに構造マップが使える。

手順：

- ①ブレインストーミング
- ②構造マップを直接英語に直す

マッピングを指導した場合、一般的な傾向として下位群の生徒たちの間では英語の量が増え、論の展開のある英文になり、上位群の生徒たちの間では英語の質が高まるという特徴が見られる。

(4)スピーチでの構造マップの活用

何も見ないでスピーチするのではなく必要なときに構造マップを見てスピーチする。

→構造マップは話の内容が構造化されているため、これによりスピーチの内容を忘れてしまった際、どこまで話したのか、何を話せばよいのかを確認することができる。

- ・自分で作った構造マップを見ながらスピーチをすると図やキーワードを頼りに話すことができるので心理的に余裕があるスピーチとなり、スピーチの際に課題となっていた原稿を読むスピーチから脱却することができる。
- ・心理的に余裕ができ原稿を見ないでスピーチすると、自然と相手を見ながらスピーチすることが多くなる。
- ・構造マップをフリップボードとして使うと聞いている人の理解が深まり、より質の良いスピーチとなる。

※この方法はスピーチだけでなくディスカッション、ディベート、プレゼンテーションの際にも利用できる。

3.まとめ

構造マップのメリット

カング(Kang, 2004)

- ①言葉で伝えることができない全体像を展開させる
- ②思考と構造プロセスを視覚化させるツールを提供する
- ③複雑な概念を簡単で明白な表示で明らかにさせる
- ④筆者の概念と情報を再構造、再構築することを手助けする
- ⑤組み立てと分析により、学習者の記憶を促進する

実際に使用した際に見られたメリット

- ①テキスト全体のつながりが把握できる
- ②筆者の思考プロセスを再構築でき、学習者自身の思考能力の育成につながる
- ③発話量が増える

④発話の質が高まる

⑤話す（または書く）内容を構造化することにより、論理的な展開をもった内容になる

構造マップにより伝える内容が構造化されるので、生徒のアウトプットが論理的な展開をもった内容になる。

構造マップはあくまでもアウトプットにつなげるための手段であり、マップそのものを描くことが目的ではない。最終目的は構造マップを使わなくても内容のある発信ができることである。

感想・考察

スピーチの際に構造マップを使うという案はとても有用なものだと考えられる。

実際に今までスピーチの授業を何度か経験したが、原稿をずっと見ながら話している生徒、途中で何を言ったらいいか分からずに止まってしまう生徒が多かったように思える。そのような生徒のためには話の構造を思い出させるために使うことができるだろう。構造マップを使っても話の内容全てを思い出すことは難しいため、その部分はある程度覚えておかなければならないが、話の順番はこれを見ることにより思い出すことができる。それだけでもスピーチをする生徒にとっては大きな負担軽減となるだろう。

自分の経験から話す内容・順番をすべて覚えてスピーチをするということは難しい作業だということがよく分かる。本書にもあったがこれにより心理的余裕を持たせることができ、スピーチの質が上がる可能性があるのであれば、やはりこの方法は有用なものであろう。